

視察の目的と成果

広島市 10月20日 都市近郊の農業の可能性について

115万人の地産地消 広島市民の「食」を支える元気な「農」の実現を実践している現状を視察した。広島市は政令指定都市でありながら農村地区を抱え農業に力を入れ、高収益出荷型から自給自足型まで幅広い元気な農業の展開を推し進めています。行政が率先して支援する体制が確立され、また市民と農家の協働（農村サポーター育成）の取り組みも推進していました。北摂地区というエリアに立てば、能勢町はその農村地区になり、具体的な取り組みは大変参考になりました。

美作市 10月21日 箕面市彩都における都市農村交流施設の運営と現地での農業振興について

美作市は市内に能勢町でいうと物産センターと同じような規模の直売所を持っていますが、そこだけでは販売に限界があると、箕面市彩都に店舗展開をしています。

事前に箕面市の店舗を視察してきましたが、大変活気があり、また品揃えも豊富でした。農業を取り巻く状況は美作市も能勢町も同じ、第三セクターでの運営も同じでしたが、やはり行政が率先して取り組む姿勢は見習うところが多々ありました。

特筆すべきは、箕面市の店舗はコンサルなどには委託せず職員が自ら探し出し企画したことです。能勢町も都市近郊の立地条件を活かせば、美作市以上の取り組みもできるはずです。



箕面市彩都 彩菜みまさか店内の様子

下排水事業について

11月22日開催 下排水事業に対しての国や府の動向と町の進め方

国・府の動向

国は下排水事業を所管する国土交通省、農水省、環境省が、効率的な事業を行うために協議会を設置し議論が進められている。

大阪府は効率的な下排水事業を支援するため、集合処理（下水道・農業集落排水）と戸別処理（浄化槽）の建設コストや維持管理費を試算し、どちらが効率的か計算できるシステムを開発した。結果は今後行うところは全て戸別処理が効率的と判断された。

能勢町での今後の進め方

国や府がどのような方針を示そうが、能勢町は時間がかかっても集合処理を進めたいと考えているとの答弁でした。

委員会での質疑

委員からは、いつまでかかるかわからない事業でいいのか、多額の費用がかかっているのに下水道整備されている地区とそうでない地区では不公平感がある、第3期の平通地区はなぜ中断したのか、総合計画で行政の進め方と違う結論になったらどうするのかなど、多くの意見が出ました。しかし今年度末には第4期の地区を決め下水道事業を進めるとの考えを変えるつもりはないとのことで、平行線の議論に終始していました。